



## 植物成分で害虫駆除

日本エコロジア 効果は化学品と同等

ニーム(インドセンダングサ)やハニアなど天然植物の抽出成分を原料にした害虫駆除剤や抗菌・消臭剤が開発された。特許取得済みのベンチャー企業、日本エコロジア(東京都渋谷区)が研究を進めてきたもので、代理店網を確立しながら順次販売する。

世界各地には、薬効成分を含む植物が多数存在し、実際に使われている。同社はそうした植物の中から、アジアや欧米などを得意とする害虫駆除剤や抗菌剤などとして広く利用されているニームの葉から抽出されるオイルに着目。文献調査や実験によると、ゴキブリ、蚊、ハエ、バツタなど約100種の虫に殺虫または忌避作用があることを確認した。

同社では、このニームオイルをはじめさまざまな植物成分エキスを組み合わせ、五十種類以上の製品を開発。一般に天然植物成分を使った害虫駆除剤の場合、効果が出るまでに一週間以上かかるなど、即効性が難点とされていたが、新

製剤は「ハエや蚊は瞬時にゴキブリでは十秒から一分程度で殺虫してしまふ」と(同社)な化学品と同等の効果を備えたという。

現在、用途開発を推進中で、当面は農薬対象外の「不特定用途駆除剤」をはじめ、抗菌・消臭剤などから事業展開していく。OEM(相手先ブランドによる生産)供給も検討する。

同社では新製品の普及を図るため、代理店による販売を推進する。初年度自社、三年後をめどに四角社体制を構築していく。製品の製造は岐阜県内の協力工場に委託する。

同社は2003年11月の設立。資本金3550万円。従業員6人。

代表者の西藤徹祐社長は「上智大外国学部卒、オランダの日本企業誘致機関に入所後、外資系投資顧問会社、会計事務所などを経て03年に日本エコロジアを設立した。」(<http://www.ecologia.co.jp>)